

「橋梁計画・設計マニュアル」(令和3年4月) 新旧対照表

章	節	ページ	新	旧	備考
3章	3.5.2	44	<p>3.5.2 (2)</p> <p>3.5.2 防水層</p> <p>(1) 橋梁のコンクリート床版(PC橋を含む)には、原則として全面防水工を施工する。なお、基層にグースアスファルト混合部を使用する場合は、防水層を設けなくてよい。</p> <p>(2) 防水工は、車道部はシート系防水層、歩道部は塗膜系防水層を標準とする。</p> <p>(2) 防水層の設計は、作業時期や作業スペースの制約などの施工条件に適した防水層を選定し、候補が複数となる場合は、経済性を比較検討して最も経済的な床版防水層の種類を選定する。</p> <p>(3) 舗装と防水層との間に滞留する水分を速やかに排水するため、図-3.5のように導水パイプ等の排水設備を設置する。</p> <p>図-3.5 橋面排水処理参考図</p> <p>(1) 床版への雨水や冬季路面管理時に使用する凍結防止剤等の侵入を防止し、床版の耐久性の向上を図るために防水層を全面に設置する。なお、鋼床版の舗装基層にやむを得ずグースアスファルト混合物を施工できない場合には、原則として全面防水工を施工する。</p> <p>(2) 車道部にはシート系防水層、歩道部には塗膜系防水層を用いることを標準とするが、曲率が大きい橋梁の車道部など品質確保が困難な場合には、塗膜系防水層を用いてよい。</p> <p>防水層の種類選定及び構造細目については、「道路橋床版防水便覧」による。</p> <p>(2) 床版防水層の種類選定にあたっては、工期短縮の必要性や舗装打替え時期などの施工条件に応じて「道路橋床版防水便覧」の要求性能を満足する床版防水層の種類を選定する。施工条件に関わる特段の制約等がない場合は、インシヤルコスト及びライフサイクルコストを考慮して最も経済的な床版防水層の種類を選定する。</p> <p>(3) 防水層上の滞留水は、舗装部分が水浸された状態となり、夏場には滞留水が温度上昇し、舗装の早期劣化の要因となることがある。また、輪荷重の影響を受けて滞留水が流動し、舗装と防水層の付着性を低下させることも考えられる。このことから、水抜き孔や導水パイプなどの排水設備を設け、速やかに排水させるよう計画する。詳細は9.1.5を参照のこと。</p>	<p>3.5.2 (2)</p> <p>3.5.2 防水層</p> <p>(1) 橋梁のコンクリート床版(PC橋を含む)には、原則として全面防水工を施工する。なお、基層にグースアスファルト混合部を使用する場合は、防水層を設けなくてよい。</p> <p>(2) 防水工は、車道部はシート系防水層、歩道部は塗膜系防水層を標準とする。</p> <p>(3) 舗装と防水層との間に滞留する水分を速やかに排水するため、図-3.5のように導水パイプ等の排水設備を設置する。</p> <p>図-3.5 橋面排水処理参考図</p> <p>(1) 床版への雨水や冬季路面管理時に使用する凍結防止剤等の侵入を防止し、床版の耐久性の向上を図るために防水層を全面に設置する。なお、鋼床版の舗装基層にやむを得ずグースアスファルト混合物を施工できない場合には、原則として全面防水工を施工する。</p> <p>(2) 車道部にはシート系防水層、歩道部には塗膜系防水層を用いることを標準とするが、曲率が大きい橋梁の車道部など品質確保が困難な場合には、塗膜系防水層を用いてよい。</p> <p>防水層の種類選定及び構造細目については、「道路橋床版防水便覧」による。</p> <p>(3) 防水層上の滞留水は、舗装部分が水浸された状態となり、夏場には滞留水が温度上昇し、舗装の早期劣化の要因となることがある。また、輪荷重の影響を受けて滞留水が流動し、舗装と防水層の付着性を低下させることも考えられる。このことから、水抜き孔や導水パイプなどの排水設備を設け、速やかに排水させるよう計画する。詳細は9.1.5を参照のこと。</p>	